

平成27年7月15日(水)
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議
・道徳教育の指導の改善に関するヒアリング

問題解決的な学習を導入した道徳授業 ～多様で効果的な指導と評価の在り方～

岐阜大学大学院 柳沼 良太

道徳教科化の流れ

- ▶ **教育再生実行会議**の第一次提言(平成25年2月)
「いじめ問題等に対応」する道徳教育の充実
- ▶ **道徳教育の充実に関する懇談会**の報告書(平成25年12月)
「新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために」
「特別の教科 道徳」の設置、『私たちの道徳』の作成
- ▶ **中央教育審議会道徳教育専門部会**答申(平成26年10月)
- ▶ **学習指導要領の改訂**(平成27年3月)
- ▶ **学習指導要領の解説書**(平成27年7月)

今日的な課題

いじめ問題等に対応した道德教育の充実

基本的な生活習慣、マナー・礼儀作法

自己肯定感、自尊感情の低下

規範意識の低下、人間関係の希薄化



情報モラル、生命倫理、法教育、安全教育、

シティズンシップ教育など

広い意味での道德教育

従来の道徳授業の課題

授業の形式化(形骸化)

- ▶ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- ▶ 分かりきったことを言わせたり書かせたりする。
- ▶ 価値の押し付けになりかねない。

実効性が上がらない

- ▶ 道徳授業が道徳的行為や習慣に繋がらない。
 - ▶ いじめのような現実問題に対応できない。
 - ▶ 発達段階をふまえた指導が難しい。
- 

認知的、情意的、行動的側面の育成

- ▶ 従来の「**道徳の時間**」
道徳性(道徳的実践力)の育成
情意的側面を重視



- ▶ 「**特別の教科 道徳**」
道徳性の育成
認知的、情意的、行動的側面をバランスよく育成

道徳教育・授業の目標

従来の道徳授業

- ▶ 道徳教育の目標 ⇒ 道徳性の育成
- ▶ 道徳授業の目標 ⇒ 道徳的実践力の育成
(内面的資質)



道徳科

- ▶ 道徳教育も道徳授業も「道徳性」の育成
(資質・能力)

道徳性とは

- ▶ 様々な課題や問題を解決し、よりよく生きていくための資質・能力（中教審答申）
- ▶ 人生で出会う様々な問題を解決して、よりよく生きていくための基盤となるもの（学習指導要領）

問題解決する資質・能力としての道徳性



「生きる力」の基盤
キーコンピテンシー
21世紀型能力

「生きる力」と道徳性

「生きる力」とは、

- ① 基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力(確かな学力) **知**
- ② 自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性 **徳**
- ③ たくましく生きるための健康や体力 **体**

道徳性⇒「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために重要
(学習指導要領総則...改訂の経緯)

コンピテンシーと道徳性

キー・コンピテンシー(OECD)

知識基盤社会時代に特定の文脈で複雑な課題に対応できる能力

- ① 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力
- ② 多様な社会グループにおける人間関係形成能力
- ③ 自立的に行動する能力

21世紀型能力(国立教育政策研究所)

- ※ 知識や技能を理解するだけでなく、活用できることが大事
- ※ 静態的な形式知だけでなく、動的な実践知
実践の場で主体的に適切な判断ができる能力

道徳科の構想

- ▶ **何ができるようになるか**
資質・能力としての道徳性
抽象的な内面的資質ではなく、生きて働く道徳性
- ▶ **何を学ぶか**
道徳科の内容項目...道徳的諸価値についての理解
方向目標⇒行動目標へ
- ▶ **どのように学ぶか**
道徳科の指導方法 ⇒ 考え、議論する道徳
問題解決的な学習

各教科等と同様に

道徳科の目標

学習指導要領（平成27年3月改訂）

教科の
構造

- ①よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、
- ②道徳的諸価値についての理解を基に、
指導内容
- ③自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、
自己の生き方（人間としての生き方）についての
考えを深める学習を通じて、
指導方法
- ④道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度
を育てる。
育成すべき
資質・能力

育成すべき資質・能力

- ① 道德性の**認知的側面**... 道德的思考力、判断力
「何をなすべきか」「なぜそうすべきか」
 - ② 道德性の**情意的側面**... 道德的心情、実践意欲・態度
「どんな気持ちか」「それを大事にしたい」
「実践したい」
 - ③ 道德性の**行動的側面**... 道德的実践力
「どのようにすべきか」
- ※ 三側面を**バランスよく総合的に指導**することが**実効性**を高める。

道徳性の育成

▶ 道徳的判断力

▶ 道徳的心情

▶ 実践意欲・態度

道徳科の目標

週一時間

道徳教育の目標

▶ 道徳的行為 「体験的な学習」の活用
特別活動や総合との関連

▶ 道徳的習慣

学校の教育
活動全体

家庭や地域社会
との連携

人格の完成

子供の立場

各教科
特別活動
総合学習
体験活動

道徳的な
行為・習慣

子供の
生活経験

問題状況
の確認

道徳性
の育成

道徳的実践意欲
道徳的態度

ねらいに迫る

解決策を
吟味する

道徳的判断力
道徳的心情

複数の解決
策を探求する

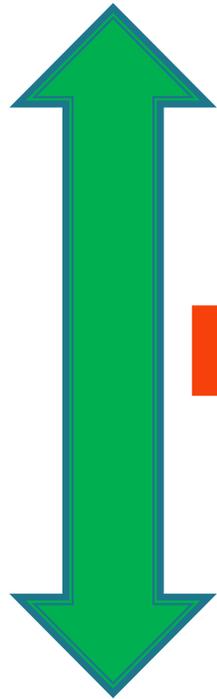
問題解決的な学習を生かした道徳授業

- ① 多面的、多角的に考える
道徳的諸価値についての理解を基に、
自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える。
- ② 対立する価値観を比較検討する。
複数の内容項目(道徳的価値)を扱うことも可能
- ③ 道徳の行為や習慣への指導

アクティブ・ラーニングのように、
子供たちが問題を主体的、協働的、能動的に
思考し、判断し、表現し、話し合う学習

問題解決型の発問

道徳授業 「主人公の気持ちは？」



問題解決的な発問

「主人公はどうしたらよいか」
「自分ならどうするだろうか」

教師と子供が一緒に考える

生徒指導 「こうしてはいけない。こうしなさい」

指示・命令

問題解決型の授業展開

▶ 道徳授業の起点

子供が道徳的問題に関心をもち、
主体的に取り組み、多様な解決策について
自ら考え、判断し、議論する学習

▶ 読み物資料

子供の生活経験と関連した具体的で切実な
道徳的問題を取り上げる。

傍観者(第三者)ではなく、当事者(自分のこと)
として切実に考える。

事前指導(調査)

① 子供たちの実態や価値観を調査(アセスメント)

- 従来の観察法・面接法
- 児童の自己評価カード
- 学習指導要領に準じた道徳性アンケート
- 道徳意識アンケート
- エゴグラムなど

② 事前の読書、ビデオ観賞、体験活動をする。

- 長い資料やビデオを理解しておく。
- 総合単元的な道徳学習の工夫(例 田中正造)

授業の導入

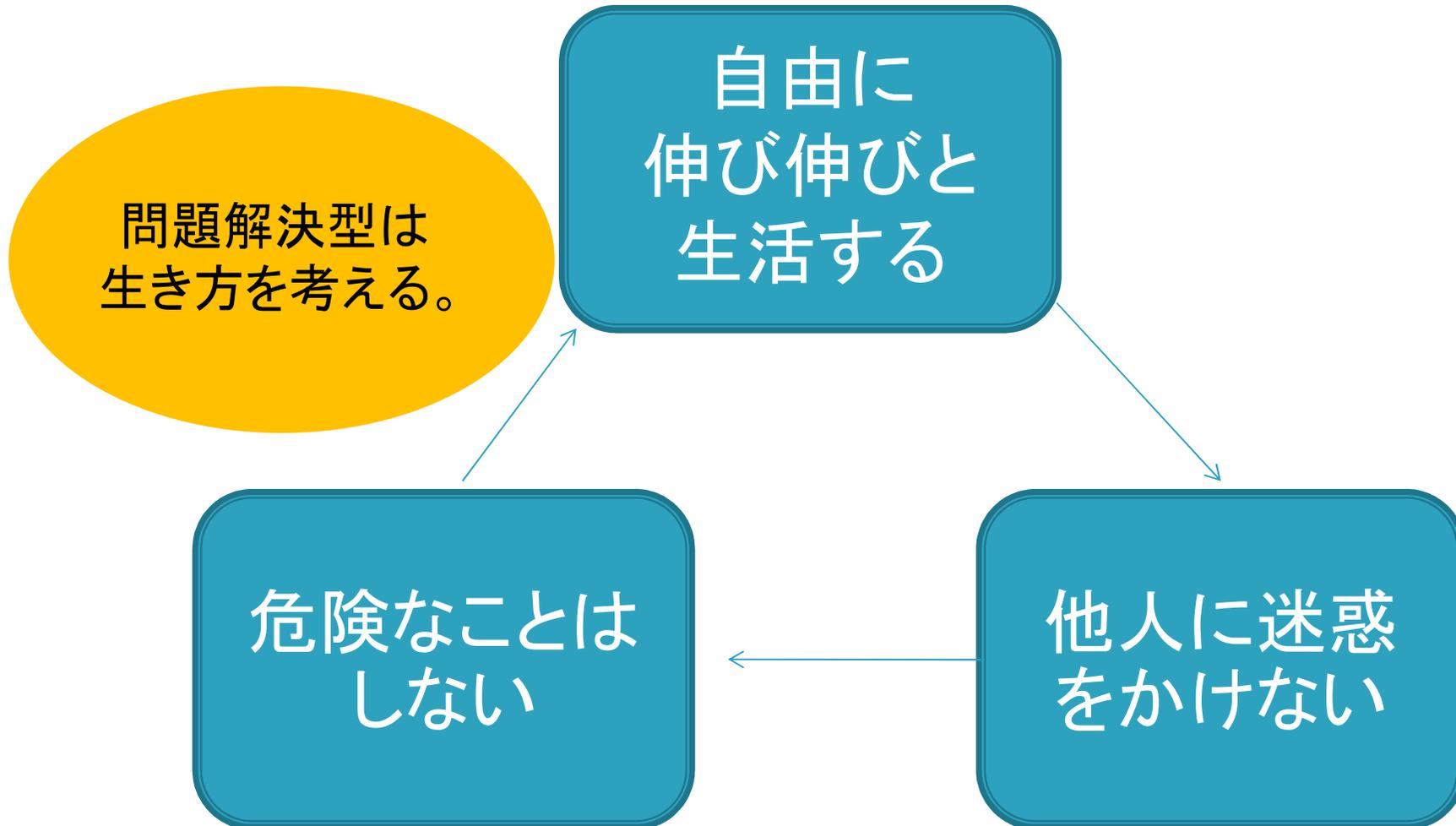
- ① 個人的経験や具体的事例から道徳的価値を考える。
「友達がいてよかったなと思うのはどんな時？」
- ② 授業で取り上げる道徳的価値について考える。
「あなたにとって思いやりとは？」
- ③ 道徳的価値の本当の意味や意義を考える。
「自由とは何だろう？」

「かぼちゃのつる」

- ①カボチャがつるを自分の畑からどんどんはみ出して伸ばしていく。ミツバチやチョウチョに注意されても止めない。
- ②スイカ畑へ伸ばし、スイカに注意されても止めない。
- ③さらに、道に伸ばしていき、子犬に注意されてもやめない。子犬に踏まれてもやめない。
- ④最後に、車道につるを伸ばしてゆくと、車にひかれて切れてしまった。カボチャは涙をポロポロこぼした。

心情理解型は場面ごとに
かぼちゃの気持ちを尋ねる。

「かぼちゃのつる」



展開前段(資料の道徳的問題を解決する)

① 道徳的問題の状況を分析する。

「ここでは何が問題になっていますか？」

「ここで困ったことは何ですか？」

「何と何で迷っていますか？」 対立する価値観

② 複数の解決策を自由に構想する。

「どうしたらよいだらう？」

「主人公はどうしたらよいだらう？」

「自分ならどうしたらよいだらう？」

自己の
生き方

人間として
の生き方

情報モラルの授業例

▶ 『私たちの道徳』3・4年生、172頁

「ゆみさんの家に電話がかかってきました。
『よい参考書があるので、たくさんの人に紹介したい。
友達の名前と電話番号を教えてくださいませんか。』
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。」

(発問)

○教えたら、どのようなことになると思いますか(結果)

○このような時、どうすればよいでしょうか(解決)

いじめ問題等に対応する道徳授業

▶ いじめ防止対策推進法2013年

▶ いじめの実態調査(アセスメント)

▶ 「いじめ」とは何か？

▶ いじめの構造

被害者...自己主張、自衛、自己肯定感

加害者...共感的理解、思いやり、加害者意識

傍観者・観衆...当事者意識

仲裁者...公正、公平、社会正義

いじめの事例

▶ 『私たちの道徳』小学校5・6年、134頁

そうじの時間です。ごみ箱にたまったごみを、最後に収集場所に捨ててに行くことになりました。

当番だったAさんがごみ箱を持って行こうとすると、Bさんが「Aは行かなくていいよ。」と言いました。

そして、Cさんに向かって、「C、お前が行けよ。」と言って、Cさんにごみ箱をおし付けました。

Cさんは笑いながら、ごみを捨ててに行きました。

- ▶ このようなとき、あなたがAさんならどうしますか。
- ▶ あなたがCさんだったらどうしますか。

いじめ問題の事例分析

- ▶ **Aさん**.....同調圧力に弱い⇒公正、公平、社会正義
(傍観者) やるべき仕事をしっかり行う。
- ▶ **Bさん**.....きまりに放縦で自分勝手⇒規則の順守
(加害者) 配慮が足りない⇒思いやり、相互理解
- ▶ **Cさん**.....自己主張が足りない⇒自分の意見を主張
(被害者) あきらめがち⇒よりよく生きる人間の強さ

問題解決の思考過程

- ① 読み物資料をテキストとして自由に解釈する。
- ② 複数の解決策を行動方針として立案する。
「あれか、これか」ではなく、複数の選択肢を構想
「他に解決策(考え)はないだろうか？」
- ③ 複数の解決策を比較検討して最善策を決定する。
「どれが最もよいだろうか？」



ねらいに迫る

問題解決への示唆

- ① 解決策の理由(動機)を考える。
「どうしてそう思いましたか？」
- ② 将来の結果(因果関係)を考える。
「そうしたら、どうなると思いますか？」
- ③ 過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる。
「自分も同じような経験なかったかな？」
※ 自分の経験を語ることで全員参加できる。

問題解決への示唆

④ 可逆性の原理

「自分がそうされてもよいか？」

⑤ 普遍性の原理

「いつ、どこで、誰にでもそうするか？」

⑥ 互惠性の原理

「それで皆が幸せになれるか？」

※ 自己中心的な欲求から**公共的な福祉の実現**へ

※ 一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へ

『絵はがきと切手』の発問

「あなたが主人公のひろ子なら、どうしますか？」

(問題解決的な発問)

「あなたが転校生の正子なら、そうしてほしいですか？」

(可逆性の原理)

「正子が間違えた料金でクラス中の友達に絵はがきを出したら、どうなるでしょう？」(普遍性の原理)

「それで本当の友達になれるか？」

「それでお互い幸せになれるか？」(互恵性の原理)

展開後段（問題解決の議論）

- ① ペア、グループ、学級全体で話し合うパターン
自己の考えを発表する。
自分の生き方を交流し合う。
公共的問題について合意（納得解）を形成する。
- ② シミュレーションするパターン
身近な問題に汎用（応用）する。
類似の問題に汎用する。
汎用力の育成

シミュレーション(応用問題)

「裏庭での出来事」を考えた後に、
「掃除をしない友だちにどう言えばよいか」考える。

- ① 無視する。何も言わない。
- ② 頭ごなしに厳しく注意する。
- ③ 掃除の大切さを説き、一緒にやるよう働きかける。

▶ 相手を尊重しつつ自己主張する方法

シミュレーション(応用問題)

例えば、「二通の手紙」を読んだ後に、NHKEテレの『ココロ部！』で放送した「遅れてきた客」を考える。

(様々な解決策)

- ▶ 相手を思いやって入れる。
- ▶ 規則を尊重して入れない。
- ▶ 第三の解決策を考える。

展開後段(体験的な学習)

- ▶ 座学から体験的な学習(直接経験)へ
⇒ 道徳的判断力・実践力・行動力の育成
- ▶ 役割演技
問題状況を即興的に演技して考える。
- ▶ スキル的な学習
「どのように行動するか」「どう行動できるか」

終末... 道徳的問題の結論をまとめる

- ① 話し合った内容をまとめ、感想を述べ合う。
「今日の授業でどのようなことを学びましたか
どのようなことを考えましたか」
- ② 導入における根本的な問いに結論を出す。
道徳的価値の自覚と深化を確かめる。
「授業を通して本当の友情とは何だと思いましたか」
- ③ 今後の生活に道徳的価値を生かすように促す。
価値の内面化から道徳的実践へ
「今後の生活でどのように生かせるだろうか」

道徳科の評価

- ▶ 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす。
- ▶ ただし、数値などによる評価は行わない。



- ▶ **記述式**の評価とする。
- ▶ 子供がいかに成長したかを積極的に受けとめ、努力を認めたり、励ましたりする個人内評価
 - × 相対評価ではない。

道徳性の評価

個々の内容や項目ごとの細かい評価ではなく、
大ぐくりなまとまりを踏まえた評価を行う。

子供のよさを多面的、継続的に把握し、
総合的に評価する。

指導要録に道徳専用の記録欄を新設

評価の観点

ねらいに即した観点

▶ 道德性の諸様相

- 道德的判断力
- 道德的心情
- 道德的実践意欲・態度

▶ 内容項目...大きなまとまりで

▶ 教科の3観点

- 関心・意欲・態度
- 思考・判断・表現
- 知識・技能

自己評価

道徳の評価方法

▶ パフォーマンス評価

子供が課題に取り組み**思考し判断し表現**する過程を評価

情報の理解力、文脈の解釈、
既存の知識や経験へ結び付け、
知識や技能の活用などを評価

道徳ノート、
ワークシート

※ 評価基準表をルーブリック(指標評価)として設定

言動の変容に関する観点

- ▶ 「うばわれた自由」(私たちの道徳 小学校5・6年生34頁)



「好き勝手ができる自由」「何でもできる自由」

「ルールを守った自由」「相手を尊重した自由」

「自他に対する責任をもった自由」

- ▶ 「いじめ」(私たちの道徳 小学校5・6年生 134頁)



「見て見ぬふりをする」、「無視する」

「相手の気持ちを考えて声をかける」

「味方になる」「教師や親に助けを求める」

内容項目と関する観点

○自分との関係

自分の経験と重ね合わせて書いている。

○価値づけ

ねらいとする道徳的価値の理解を深めている。

○将来の行動

自分が将来、実践できることを記している。

後の実践をふまえ、学期や学年で振り返る。

⇒認め、励まし、勇気づけるコメントを付けて返却

自己効力感の高まり

道徳科と「行動の記録」

▶ 指導要録の「行動の記録」を改善して活用

▶ 子供の発達段階に応じて**重点化**

20前後の内容項目、
40前後のキーワード

地域や学校ごとに核心価値を設定

(例...個性伸長、思いやり、正義、生命尊重など)

▶ 「行動の記録」に**道徳科のキーワード**を反映

「道徳科」で養った実践意欲・態度を

日常の道徳的実践に繋げたことを評価

道徳科と「行動の記録」

道徳科と特別活動(体験活動)との連携

①体験活動⇒道徳科

体験から道徳的価値を見出す。

②道徳科⇒体験活動

道徳的価値を実践すること
で自覚を深める。



定期的な振り返りシート
自己評価シート

事後指導と「行動の記録」

① 体験活動や実践を自己評価する。

一定期間の振り返りをワークシートに記入する。

実際にやってみてどうでしたか？

(例 「一言がんばり日記」『私たちの道徳』)

② 達成度で自己評価する

「よくできた」「満足」

「だいたいできた」「だいたい満足」

「もっと努力する」など ⇒ 理由、改善の工夫

③ 道徳的行為をつづけて道徳的習慣を形成する。

行為を習慣化し、人格形成へ

☆道徳の時間の学習を主かす☆

Week

年 組 名前

行動目標

毎日のふり返り ※評価 ○：できた ×：できなかった

月日	評価

取り組みのふり返り ※評価 1～5点：努力がたりなかった
6～9点：だいたいできたが、まだがんばることがある
10点：理想通りで、満足している

今回の取り組みの評価は()点です。
わけは、
.....
.....

ポートフォリオ評価

成果をファイルに収録し学習状況を把握

子供の作品(ワーク)

自己評価の記録

成長を実感し、

新たな課題や目標を発見

⇒ 道徳ノートやワークシートを系統的に蓄積

学期や学年ごとの中長期的な評価

教師と子供たちのカンファレンス(相互評価)

問題解決型の課題とその対応

- ① 子供の自主性や独創性を尊重
教師のアドリブ力が肝心
- ② 子供の考えや議論を共感的に理解
→ 自他を尊重し、聴き合う関係
カウンセリング・マインド
- ③ 子供と教師が一緒に評価活動

おわりに

- ① 「読む道徳」から「考え議論する道徳」へ転換
- ② 問題解決的な学習を生かした道徳授業
に対応した教員養成や教員研修の充実
- ③ 校長を中心に、道徳教育推進教師が率先し、
教師全員の連携・協力体制を構築

(参考文献)

- 柳沼良太『実効性のある道德教育—日米比較から見えてくるもの—』、教育出版、2015年。
- 押谷由夫・柳沼良太(編著)『道德の時代がきた!』(2013年)、
『道德の時代をつくる!』(2014年)、教育出版。
- 柳沼良太『「生きる力」を育む道德教育—デューイ教育思想の継承と発展—』、慶應義塾大学出版会、2012年。
- 吉田武男・相澤伸幸・柳沼良太『学校教育と道德教育の創造』、学文社、2010年。
- 柳沼良太『問題解決型の道德授業—プラグマティック・アプローチ—』、明治図書、2006年。